

CAMPUS KOSEI

キャンパス こうせい

vol.25

デジタルハリウッド株式会社 学校法人光星学院
連携協力に関する協定調印式

デジタルハリウッドとの協定締結



ロサンゼルスマラソン出場



第84回 選抜高等学校野球大会 準優勝

Contents

■ 法人

- ・デジタルハリウッド(株)と連携協力に関する協定書締結

■ 八戸大学

- ・新学長 大谷真樹教授就任
- ・平成24年度八戸大学・八戸短期大学入学式
- ・平成23年度八戸大学・八戸短期大学学位記授与式
- ・春のオープンキャンパス開催
- ・学生食堂リニューアル

■ 八戸短期大学

- ・平成24年度 宿泊研修

■ 光星学院高等学校専攻科

- ・2級自動車整備士国家試験 目指せ全員合格

■ 光星学院高等学校

- ・第84回選抜高校野球大会 準優勝
- ・ロサンゼルスマラソン出場 陸上部
- ・全国高校選抜大会 レスリング部・柔道部
- ・消防クラブ結成

■ 光星学院野辺地西高等学校

- ・平成23年度卒業式・平成24年度入学式
- ・全国高校選抜大会 レスリング部・空手道部



八戸大学・八戸短期大学入学式

デジタルハリウッド株式会社との包括協定の締結について

学校法人光星学院は、デジタルハリウッド株式会社（以下、「デジハリ社」という。）と包括協定を締結した。

デジハリ社は、アジアで最も高い実績と評価を誇る、IT関連およびデジタルコンテンツの人材養成スクール・大学・大学院を有し、卒業生はWebデザイン、アニメ、CG、映画産業等に就職しており、ハリウッドの映画産業界にも寄与している。

平成24年3月6日（火）に行われた調印式には、デジハリ社代表取締役兼CEOの古賀鉄也氏、中村覺理事長、大谷真樹八戸大学長（調印式当時は学長補佐）が出席し、若者の自己実現と地域社会を活性

化させるべく協業していくことを誓って握手を交わした。

なお、本協定は都道府県に対して1校限定となっており、平成25年度からは八戸大学を中心とした教育内容において、デジタルハリウッドブランドを導入していく予定である。

デジタルハリウッド株式会社のメッセージ

今回の包括協定は、『地域活性において「デジタルコミュニケーションを有効的に活用できる人材」は、あらゆる場面において貢献度の高い人材になる』という共通のビジョンが引き合わせてくれま

した。学校法人光星学院との包括協定が、東北の「地域発展」と「若者」の推進力となり、光星学院の持つ牽引力に貢献できるよう取り組んでまいります。

デジタルハリウッド株式会社

（<http://www.dhw.co.jp/>）の紹介

1994年、日本初の実践的産学協同のクリエイター養成スクールを設立。現在、東京御茶ノ水、渋谷、大阪、福岡で4校の専門スクールと、eラーニングによる通信講座（オンラインスクール）を展開。設立以来、約5万人以上の卒業生を輩出。

設立10周年を迎えた2004年4月、日本初、株式会社によるIT・コンテンツ分野の高度人材育成機関「デジタルハリウッド大学院（専門職）」、2005年4月には、ITビジネス×クリエイティブ×英語&留学を学ぶ「デジタルハリウッド大学」を開学。デジタルコンテンツ業界の人材育成と、産業インキュベーションに力を注ぐ。2014年10月に設立20周年を迎える。



新学長に大谷真樹教授（総合研究所長） 就任

中村覺理事長が兼務していた八戸大学学長に、平成24年4月1日付で大谷真樹

総合研究所長・教授が就任、大谷教授は学長就任と同時に、学院理事にも就任した。

大谷真樹学長は昭和36年八戸市鮫町生まれで、学習院大学経済学部卒業後、民間企業勤務を経て、市場調査会社を立ち上げ、上場させ業界2位に成長させた。平成13年には起業家のアカデミー賞といわれるアントレプレナーオブザイヤースタートアップ部門優秀賞を受賞した。

平成20年に八戸大学客員研究員、平成22年に八戸大学・八戸短期大学総合研究所長・教授、平成23年に八戸大学学長補佐に就任。大学では

「市場調査論」・「ベンチャービジネス論」・「イノベーションマネジメント」等の科目を担当し、総合研究所では10年で100人の起業家を青森からスローガンに社会人講座「起業家養成講座」の主任講師を務めている。

大谷学長は青森県総合計画審議会委員、八戸市後期総合計画審議会委員、青森県復興ビジョン懇話会委員などの委員を務めるほか、八戸市市政80周年の際にはイメージソングを手がけるなど、地元出身の力を活かしつつ様々な分野で活躍しており、学内のみならず、地域社会からも学長のリーダーシップに期待が寄せられている。



八戸大学・八戸短期大学の建学の精神

「神を敬し、人を愛する」

八戸大学・八戸短期大学は、カトリック精神に則る道德教育を施し、高潔なる人格の完成を期し、現代社会が要請する有為の人材を育成することを建学の精神とする。

平成23年度大学・短大外郭3団体合同懇談会開催

八戸大学・八戸短期大学の外郭3団体合同懇談会が、2月4日(土)八戸プラザホテルで開催され、両学の後援会・同窓会・父母の会の役員約70名が一同に会した。合同懇談会は、大学・短大の状況を報告することと、3団体役員の懇親を深めることを目的に毎年実施されている。

懇談会では3団体を代表して山田政信八戸大学後援会会長が、被災された方々に対しお見舞いを述べ、3団体において

は万難を排して大学・短大を支援していきたいと挨拶された。

続いて本学院から中村覚理事長が、学生が勉学の機会を失うことのないように修学奨励制度を設けるなど学院をあげて様々な支援を行っていることや、イノベーション基金の活用などについて報告した。さらに「地域に根ざし、地域とともに歩む」大学・短大・学院としてC I (コーポレーション・アイデンティティ)

戦略を進めていくと挨拶した。

蛇口浩敬大学・短大運営会議議長から、大学・短大の近況について報告がなされた。

その後、豊島典興八戸短期大学後援会副会長の乾杯の発声とともに、和やかに懇談が行われた。

出席した役員は、両学や各団体の近況について活発に情報を交換し、役員同士の交流を深めた。

服部教授・出口教授・鈴木教授に名誉教授の称号授与

長年にわたり本学の教授として教育と学術の発展に寄与され、本年度末で定年退職される服部 昭 教授、出口 博章 教授、鈴木 宏一 教授に名誉教授の称号が授与されることとなり、平成24年3月23日本学にて授与式が行われました。

授与式では、中村 覚 学長（学校法人光星学院 理事長）より称号記が手渡され、長年の功績に対しねぎらいの言葉が述べられました。



服部教授 昭和61年に着任し副学長等を歴任

出口教授 平成9年に着任し教務部長等を歴任

鈴木教授 平成19年に着任し学長1期（3年）勤められました

平成23年度学位記授与式

平成23年度八戸大学・八戸短期大学学位記授与式が3月23日、光星学院総合体育館において挙行政され、卒業生に学位記が授与された。

平成23年度の卒業生は、大学91名（ビジネス学部44名、人間健康学部47名）、短大176名（幼児保育学科96名、ライフデザイン学科31名、看護学科49名）の合計267名。平成21年度に開設した看護学科も初の卒業生を送り出しました。

式典では、八戸大学 中村 覚 学長と八戸短期大学 蛇口 浩敬 学長が各学部学科の代表者に学位記を授与。その後、各学部長・学科長より全員に学位記が手渡されました。

中村学長は「学んだことを大きな糧に、八戸大学・八戸短期大学の卒業生であることを誇りに歩んでいてください」と式辞。八戸市長の祝辞に続いて、卒業生を代表してビジネス学部ビジネス学科 北上優也さんと看護学科 工藤嘉恵さんが謝辞を述べました。

最後は高らかに学歌を斉唱。式典を終えた卒業生たちは、それぞれが選んだ新たな道に進んでいきました。



平成24年度 八戸大学・八戸短期大学入学式

平成24年度八戸大学・八戸短期大学入学式が4月6日(金)、八戸市公会堂において挙行され、八戸大学137名(ビジネス学部69名、人間健康学部68名、編入学生3名含む)と八戸短期大学205名(幼児保育学科105名、ライフデザイン学科19名、看護学科81名)の新入生を美保野キャンパスへ迎え入れた。

式典に先立ち八戸短期大学幼児保育学科2年生によるピアノ演奏と合唱が披露された。

式典では、大学・短大を代表して大谷真樹八戸大学学長が「人生は自分自身が考え選んだ選択の結果であり、平等な限られた時間で何を学ぶか、何をを得るのかは皆さん次第なのです。多いに学び、常

に前向きな選択をし、果敢に挑戦して総合的な人間力を高めてください」と式辞を述べた。

八戸短期大学付属幼稚園の園児と大学・短大の在校生が歓迎の言葉を述べ、特に付属幼稚園の園児が「お兄さん、お姉さん、お勉強をがんばってください」などと元気に話すと、それまで緊張感が漂っていた会場の雰囲気は一転し、新入生からは明るい笑顔がこぼれ、会場は温かい拍手に包まれた。

新入生を代表して八戸短期大学ライフデザイン学科の小山田優香さんが「大学生、短大生としての自覚を持ち、自分の夢に向かってまい進していく覚悟です」と宣誓した。



入学式



IT教育研修会開催される

平成24年2月17日、「IT教育研修会 2012～WANDO～」を開催した。本研修会は、八戸地域における情報教育コミュニティの基盤作りを目的に、八戸大学・八戸短期大学総合研究所と八戸IT



コミュニティが隔年で開催している。八戸地域の学校関係者など21名が参加した今回は、クラウドコンピューティングをテーマに4セッションが行われた。

セッション1・2ではソフトバンクBB株式会社 佐藤鎮夫氏により、タブレット端末の実習を交え、クラウドコンピューティングの動向や次世代eラーニングシステムが紹介された。セッション3では、「このアプリ“いいね!”」と題し、八戸ITコミュニティ幹事によるおすすめアプリや活用事例が披露された。セッション4では、トレンドマイクロ株式会社 杉山裕隆氏よりモバイル端末に

おけるセキュリティについての講演をいただいた。

研修会後に行われた情報交換会では、講師を交え、日頃の教育現場での課題や活用事例などの共有・意見交換し、コミュニティ作りに向けた交流を深めた。



第2回地域再生フォーラム —起業家精神が地域の未来を創る—

「第2回 地域再生フォーラム—起業家精神が地域の未来を創る—」を平成24年2月24日(金)、八戸プラザホテル クリスタルホールにて開催した。「震災を踏まえた新たなサービス業ビジネスモデル調査提案事業」(青森県三八地域県民局委託事業)の一環として開催し、第2回目となった今回は八戸地域を中心として約100名が参加した。

このフォーラムは、首都圏の起業家等との交流を通じ、地域のサービス業等の再生を支援することを目的に開催し、プロフェッショナルコネクター 勝屋 久氏(勝屋 久事務所代表)による基調講演では、「katchaman 流『オモロい人となる方法』」と題して講演し、自分の

面白さを見つけようとする意識を持つこと、観念や思い込みは自分の心の持ち次第で変わるという事、大切なのは心の循環を通してかけがえのない仲間を作ることであり、それが社会で役立つ柱立てになると話した。

事業計画プレゼンテーションでは、「平成23年度若者発あおりベンチャー大賞～夢起業ビジネスプランコンテスト～」にて、最終審査に進出した総合研究所主催「起業家養成講座」修了生3名による事業計画の発表が行われた。

フォーラム終了後に行われた情報交換会には約70名が参加し、講師やプレゼン発表者を囲んで交流を深めた。同日は八戸プラザホテルにて「ものづくり産業技



術フェア in 八戸」(主催:青森県三八地域県民局)が行なわれており、両フォーラム・フェア参加者同士の異業種交流も実現した。

3月10日午後1時30分より八戸プラザホテルアーバンホールにおいて、平成23年度八戸大学人間健康学部公開講座が開催されました。4回目を迎える今回は、テーマを「心・体・社会からの健康へのアプローチ」として、教員による講座に加え、前回好評だった学生による発表も



人間健康学部公開講座

行われました。当日は、高校生3名を含む八戸市民の方々約60名のご参加をいただき、活発な質疑応答がなされました。なお、演題および演者は次の通りです。「環境ホルモンの精巣に対する影響」、桑田正広教授。「ポジティブ心理学(Positive Psychology)―幸福についての研究―」、フォステル・マルグリタ准教授。「奥入瀬溪流での散歩がもたらすストレス軽減効果について」、飯田耕陽・工藤大輝(2年生、三島ゼミ)。「八戸地域住民における体組成および骨密度からみた老化現象」、徳公大・西村祐哉(4年生、三島ゼミ)。「自分の身体と向き合

おう 一体組成および骨密度編一」、工藤祐太郎助手。「健康(自立)と福祉」、関川幸子教授。

教員による講演は、専門分野を平易に解説したものや最新の研究成果の発表などがありました。また、学生による発表は、県事業(学生発未来への挑戦)による研究結果と、八戸市健康フェスタなどの調査データによる卒業研究でした。

最後に吉田稔学部長代行が挨拶の中で「平均寿命の延長とともに、自立して生活できる寿命“健康寿命”を延ばすことが大切です」と結び、盛況のうちに講座は終了しました。

学生食堂 リニューアル

新年度に入り、八戸大学と八戸短期大学の学生食堂がリニューアルした。これまで八戸大学会館の学生食堂は、主に大学生と専攻科の生徒が利用していたが、短大看護学科の学生も利用するようになり手狭となったため、テーブルと椅子の

数を増やし、テーブルクロスを新しくした他、1人掛けの座席や外の景色を眺めることが出来る座席を追加。八戸短期大学の学生食堂には新たに椅子(約120脚)とテーブルクロスを整備した。

学生食堂はキャンパスライフに欠かせない施設であり、授業の合間や昼食時間にくつろげる環境や

おいしく食事を食べる環境の整備に心がけた。

また、新たなメニューも加わったこともあり、学生の好評を博している。



平成24年3月10日(土)八戸大学・八戸短期大学のオープンキャンパスを開催し、高校生及び保護者をあわせ100名を超える来場者で賑わった。

この時期としては初めてのオープンキャンパス。まずは「来場者に楽しんでいただく!!」「わくわくしていただく!!」ということを心掛け学生スタッフと協働で企画・運営を実施した。

ヤマハミュージックレボリューションで優勝した実力グループの八大軽音楽部生による歓迎の演奏でスタート。引き続き、各学部学科の説明、大学生による講



義という流れでプログラムは進んだ。

今回のメインである「大学生による講義」は資格取得、学生生活、クラブサークル、進路選択という4つのキーワード別に開講。20分×2セットの受講ということで、参加者は2つのキーワードを選択することができた。1、2年生が参加対象ということだったため進路未決定者は少なくない。よって、この講義が自分自身の進路を真剣に考えるきっかけにな



るように講師を務めた学生達は自分の経験談も交え真剣に高校生達と向き合った。

また、在学生との「ガチトーク!」も実施。大学生や短大生と本気で話しをすることで、実際の学生生活などリアルな情報を入手することができたようだ。

終了後、参加者達へ感想を聞いてみると、「また夏も参加したい」「楽しすぎてたまりません」「大学生のお姉さんが、とても親切でした」などの声が多数寄せられ、学生スタッフも非常に喜んでた。今後実施予定のオープンキャンパスは、7月28日(土)、8月25日(土)、9月29日(土)、10月13日(土)、10月27日(土)、2013年3月9日(土)となっている。

ひとりでも多くの高校生、そして保護者の方々に対し進路選択のお手伝いができるよう充実した内容を展開していきたい。

「八戸大学」OB&OG訪問 part25



青森銀行 根城支店
支店長 中居 孝之さん
(7回生)

プロフィール

八戸商業高校卒、八戸大学商学部7回生。大学卒業後は青森銀行へ入行。県内支店の勤務を経て平成24年4月より根城支店長となる。

Q：学生時代の思い出を聞かせてください

A：講義やゼミ活動、学園祭、アルバイトを通じて沢山のひとと接することが

でき、社会人としての基礎を学びました。特に思考面では大きな影響を受けましたね。これまで自分になかった哲学的な考えや理論・道理を考えるようになりましたね。

当時4年間、ガソリンスタンドでアルバイトをやり、ここでは好きな車の整備知識も習得しましたが、サービス業・商売・社会というものを体得しましたね。新人教育係も担当させて頂きましたし、今でも当時の経験談を部下に話すことがあります。学生時代のすべての経験が今に活かしていると実感しています。

Q：様々な支店を回られたと思いますが、記憶に残っている支店はありますか？

A：入行後は基本的に支店勤務を命じられます。私は津軽地区の支店に配属になりますが、生まれも育ちも生粋の南部衆の私は、当時「津軽弁」が分からず四苦八苦しましたね。でも、そこで本場の津軽弁3級(自称)を取得し、その後はど

この支店に配属されてもコミュニケーションで苦勞することはなくなりましたね。

Q：仕事で中気をつけていることはありますか？

A：いいかげんなことをしない、嘘をつかないことです。社内・お客様、誰に対しても同じです。自分の言動には最後まで責任をとるようにしています。約束を破れば、嘘つきになりますし、また自分の意見をごまかさないように心掛けています。真剣に考えれば考えるほど、状況により見解も変化します。昨日話したことと違う意見が出たときは、素直にその意見を修正することもあります。

Q：在学生へメッセージをどうぞ

A：ドライな世の中ですので、自分らしさを出していったほうがいいですね。学生時代は、勉強でも遊びでもいろいろなことにチャレンジできます。ぜひこの時期に自分を見つめなおし、自分らしさを見つけてほしいです。そして自分らしさ・人間力を持った社会人に育ってほしいです。



新入生宿泊研修



平成24年4月10日～11日（1泊2日）奥入瀬溪流ホテルにおいて、八戸短期大学新入生宿泊研修が行われた。この宿泊研修は、新入生相互ならびに教職員・リーダー学生との親睦を図るとともに、学生生活及び学修の方向付けを身につけることを目的として毎年行われ、今年で6回目の開催となった。

1日目はエンカウンター、学歌指導、学生会歓迎セレモニーが行われた。エンカウンターでは、学生委員会担当講師の他、リーダー学生が中心となり、出会いのワークショップとして、「かんたんダ

ンス」「自己紹介と他己紹介」「似たとこ探し」「二者択一」「ダンスリトルバード」「2年後・3年後の自分」などを実施し、他者と協力し合い自分を表現することで、より深いコミュニケーションを取ることができ良い体験ができたようである。学生会歓迎セレモニーでは、学生会の主要行事紹介の他、各サークルの紹介が行われた。毎年1年生が参加している流し踊りの実技指導も行われ、担当教員とリーダー学生が中心となり、1年生への指導が行われた。

2日目は、交通安全講習会の後、各学

科に分かれ学科研修が行われた。交通安全講習会で視聴したDVDは、交通事故について改めて考えさせられる内容であり、交通事故を起こした場合の悲惨な状況を確認できた。学科研修では、各学科の特色を活かした内容が企画され、学科内での親睦を図ることができたようである。

2日間のプログラムを無事に終えた新入生たちには、入学時からの緊張を緩和させ、新たな仲間と共に、希望に満ちた充実した短大生活を送って欲しいものである。



2日目 ライフデザイン学科研修 セミナール紹介



1日目 八戸小唄流し踊り指導



2日目 幼児保育学科研修 鳥帽子製作



1日目 エンカウンター



1日目 八戸小唄流し踊り指導



2日目 看護学科研修 血圧測定



2日目 幼児保育学科研修 烏帽子製作



2日目 ライフデザイン学科研修 セミナール紹介



1日目 学生会企画



1日目 夕食



2日目 看護学科研修 血圧測定

平成23年度 修了証書授与式

平成23年度の専攻科修了証書授与式が、平成24年3月13日(火)10時より美保野キャンパス八戸大学会館において挙行された。自動車科37回生21名、介護福祉科19回生28名が、2年間の様々な思いを胸に式に臨んだ。式では修了生一人一人の名前が呼ばれ、代表者に日渡校長代行より修了

証書が手渡された。その後、日渡校長代行より「専攻科の卒業生として誇りと自信を持ち、今まで蓄えたパワーを新しいフィールドで思う存分発揮して欲しい」との式辞があり、中村覚理事長からは「師や友との触れ合いの中で育まれたことを糧にして、己の信じる道をひたむきに歩

んで欲しい」と祝辞が述べられ授与式を終了した。

午後からは八戸プラザホテルで祝賀会が行われ、修了生と父母・教職員が和やかに2年間の思い出話やエピソードなどを語り合っていた。



2級自動車整備士 国家試験

平成24年3月25日(日)自動車科の最大の行事とも言える、『自動車整備技能登録試験』が美保野キャンパス内の八戸大学会館において行われました。一般の受験者と共に平成23年度専攻科自動車科の修了生21名が、「2級ガソリン自動車」「2級ジーゼル自動車」の2科目の試験に臨みました。

2年間の学習の成果を出す試験であると同時に、整備士には絶対に必要な資格とあって、全員普段では見られない真剣

な表情で試験に取り組んでいました。試験後の控え室では、自己採点をしながら一喜一憂する姿が多く見られました。

卒業生たちは『全員合格』を目標に掲げ、卒業式後も出校し試験対策に取り組んでいましたが、惜しくも100パーセントには至りませんでした。専攻科では今回の結果を踏まえ、来年度こそ全員合格を目指し、学生と教職員が一丸となって取り組んでいきたいと思っています。

平成24年度 入学式

平成24年度入学式が4月10日(火)少し肌寒い中、八戸大学320教室において挙行された。スーツ姿の凛々しい新入生たち、

自動車科11名、介護福祉科39名が日渡文雄校長代行より入学を許可された。続いて、新入生を代表して介護福祉科の四ッ役麻未さん(光星高校卒)が「それぞれの分野で人間性を高め、

スペシャリストとして社会に貢献できる人材になる努力をする」と宣誓した。式では日渡文雄校長代行が「ここで出会った多くの仲間と同じ思いを共有し、充実した2年間を送ってほしい」と激励し、

中村覚理事長は「学院として、一人一人が持つ目標に誠心誠意、応援します。自己の目標に向かって、努力を怠ることなく突き進むことを期待します」と祝辞を述べられた。

新入生はこれから自動車整備士、介護福祉士になるために2年間各専門教科を学び、技術を身につけていく。



平成24年度スタートにあたり

花の便りも聞かれ始めた4月9日、多数のご来賓、保護者のご臨席の中、57回目の入学式が行われ387名の新入生が薔桜の門をくぐりました。在籍生徒数1070名、教職員74名の平成24年度光星学院高等学校がこの日スタートを切りました。私は人生の中で10代のこの一時にどれだけ感動できるもの、感動できる人に出

会ったかで、その後の一生が決まるような気がしております。スタートにあたりこの日入学した387名の新入生に一つだけお願いしました。「悩みながらも感動できる高校生活を送って頂きたい」と。そして、最後こう結びました。

「私たち教員にとって、生徒との出会いは人生の財産であり、その存在は一生

の宝ものです。生徒とともに積み重ねる日々の小さな感動が、お互いの人生をどれだけ豊かなものにしてくれるでしょうか。

“感動が人をつくる”

光星学院高等学校は常に「感動クリエイター」であり続けたいと願っています。

校長 橋場 保人



ロサンゼルスマラソンに参加して

今回、あしなが育英会のキャンペーンにより東日本大震災の被災地の代表として、アメリカロサンゼルスでのLAマラソンに参加してきました。

10時間を超える飛行時間と時差により調整不足でしたが5 kmの部を走りきる事が出来ました。コースは、メジャーリー

グのドジャーズの本拠地で小高い丘の上にある「ドジャースタジアム」をスタート、ゴールとするかなりタフなコースでした。他国の鍛えられた選手は最初からハイペースを刻んで走っていたのにも驚かされました。

結果は、5500人中4位入賞（日本人トップ）でしたが、タイムや走りからはまだまだ納得のいくものではありませんでした。

しかし、この国際大会を経験したことを今後無駄にせず夢であるインターハイ出場や陸上部の先輩達のように箱根駅伝で光星高校の名をTVのテロップに出せるように男子キャプテンとして走り続けたいと思います。

3年 高屋敷 光生

初めての海外はロサンゼルス、LAマラソン5 km出場となりました。アメリカでは時間は関係なく進めていくという、日本とは違うルーズさがありました。レース当日は大雨でスタート時間もよく分からない状態でバタバタしました。でも、アメリカ独特の雰囲気を味わうことができ、一つの経験となりました。5 kmのコースは上り下りの坂が激しい山の中でした。坂道や雨で大変な思いもしましたが、一緒に走っている選手の方々は、みんな力強く声をかけてくれました。その励ましが力となり、女子日本人トップの8位でゴールすることができました。レースで得た集中力、坂を上りきるガッツ、周りから支えられている喜びを日本に持ち帰り、日々の練習や試合に活かしていきたいと思います。また、ロサンゼルス・LAマラソンでの経験を財産とし誇りを持って生活したいです。

3年 寺地 有貴子



一戦必勝で挑んだ選抜

デーリー東北新聞社 提供



心が強くなった我がチームには勢いがつき甲子園では持っている力以上の大きな力を発揮し一戦一戦本当に素晴らしい試合をしてくれました。特に秋の明治神宮大会の決勝戦を戦った、愛知工大名電高校との準々決勝は8回に6番大杉の劇的なランニング3ランホームランで勝利することができ、

選抜甲子園大会出場にあたり、吹雪の中募金活動をしていただいたPTAの皆様や父母会の皆様、多くの方々に支えていただきました。感謝の気持ちを忘れずに日々鍛錬していきたいと思います。ご声援ありがとうございました。

硬式野球部 監督 仲井 宗基



野球大会 準優勝

第84回選抜高等学校野球大会 準優勝報告会



4月25日、八戸プラザホテルアーバンホールにて小林眞八戸市長様はじめ300名を越える方々のご臨席を賜り「第84回選抜高等学校野球大会準優勝報告会」が盛大に開催されました。今大会の準優勝は、昨夏の第93回全国高等学校野球選手権大会準優勝、昨秋の第42回明治神宮野球大会優勝に続く快挙であり、名実ともに本校硬式野球部が日本高校野球界の強豪校の一つ数えられるまでに成長してきたことを意味するものです。このことは学校関係者だけでは成し得ないことであり、偏に日頃ご支援、ご声援戴きました地域の皆様の御陰である、との思いから感謝

とお礼の意味を込めて報告会の開催に到った次第です。

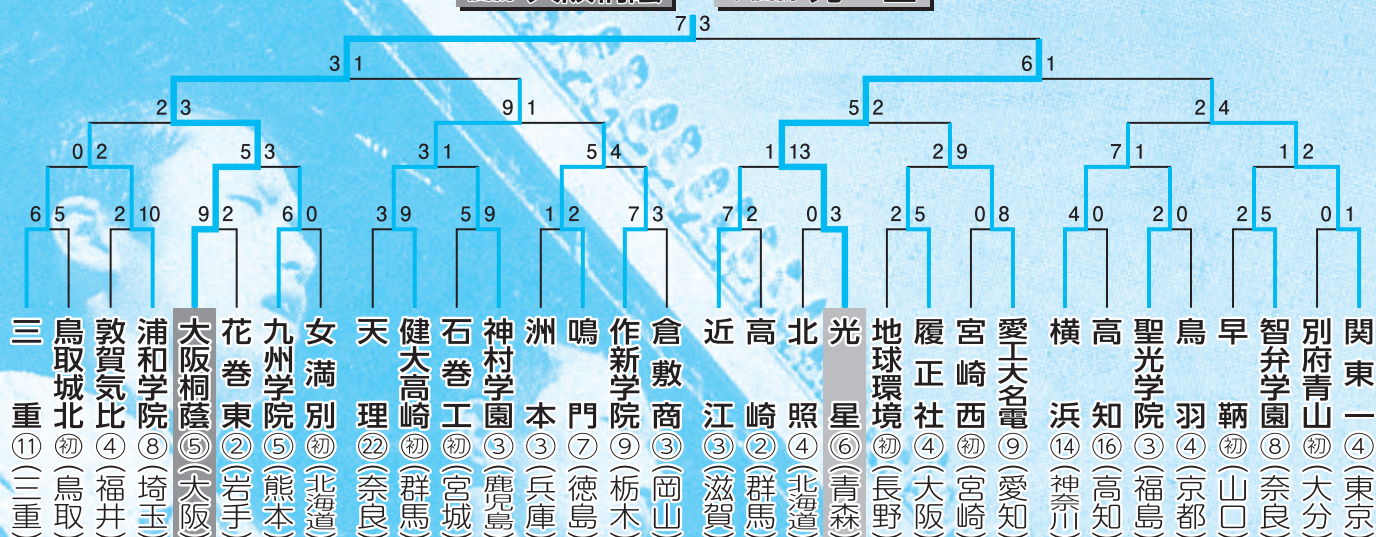
また、これより前に県褒賞、八戸市民栄誉賞、デーリー東北特別賞を戴きました。これらの賞を戴きましたことによって、今後は一光星学院高校のものにとどまらず、青森県民、八戸市民ものになったと思っております。今まで以上に精進し県民、市民の更なる期待に応えるチームであること強く願っています。

校長 橋場 保人



優勝 大阪桐蔭

準優勝 光 星



○1回戦	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
光星学院	1	0	2	0	0	0	0	0	0	3
北 照 (北海道代表)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

○2回戦	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
光星学院	0	0	3	0	5	2	0	2	1	13
近 江 (滋賀県代表)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

○準々決勝	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
愛工大名電 (愛知県代表)	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
光星学院	1	0	0	0	0	0	1	3	×	5

○準決勝	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
関 東 一 (東京都代表)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
光星学院	0	0	0	2	1	0	0	3	×	6

○決 勝	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
光星学院	0	0	2	0	1	0	0	0	0	3
大阪桐蔭 (大阪府代表)	2	0	3	0	0	0	1	1	×	7

全国大会出場

レスリング部

平成24年3月27日～29日。新潟市で行われた第55回全国高校選抜レスリング大会に出場した。昨年度は東日本大震災のため中止になり、一年ぶりの大会開催であった。今年のチームは昨年からレギュラーで活躍したメンバーが5名おり、全国大会においても上位入賞を期待できるメンバーが揃っていると確信していたため、日々の練習にも当然力が入った。選手も同様に感じており、「全国制覇」を合い言葉にチーム一丸となり練習に明け

暮れた。しかし、ギリギリまで追い込む練習が裏目に出てしまい、大会直前、怪我により主力メンバーを3名欠くという最悪の状況で試合に臨むことになった。全国の舞台で全力の闘いを誓い臨んだ団体戦。初戦の九州地区代表・鹿屋中央高



校に対し、力及ばず2対5で惜敗。試合後、選手の肩を落とす姿が今でも目に焼き付いている。監督として選手に何を求めているべきか。もう一度チームを立て直し、全国に勝負を挑みたいと思う。

大会結果

団体戦 初戦敗退

鹿屋中央（九州代表） 2対5

個人戦

66 kg 上野大輝 初戦敗退

74 kg 古川恭円 3回戦敗退

120 kg 浜谷雄樹 2回戦敗退

柔道部

私たち女子柔道部は、3月19日に東京の日本武道館で行われた第34回全国高等学校柔道選手権大会に個人戦で橋本智聡（2年）と上野美早紀（2年）の2名が出場しました。橋本は、昨年にも出場予定でしたが大震災の為、中止になりました。今回、私たちににとっては最初で最後の大会になるので、まずは初戦突破を目標に稽古に励んできました。

橋本は、初戦鹿児島県代表の鹿児島南高校・高山選手と戦いました。立ち技で

は、頑張りましたが最後は寝技の攻防になり、2回抑え込まれ逃げましたが3回目で逃げるのができず負けました。

上野は、初戦石川県代表の津幡高校・本野選手と戦いました。組み手が厳しかったが先に攻めることを意識し、何度か先に技を掛けました。しかし、最後は実力の差があり背負い投げで投げられ負けました。

お互いに初戦突破という目標を達成することができず、悔しい思いをしました。今回の全国大会で、改めて全国のレベルの高さを知ることができ、また、自分たちに足りないところや課題ができました。

今後は、高校総体で団体・個人ともに優勝して女子部員全員と吉田先生・附田先生とインターハイに行けるように日々の稽古に精進していきます。
応援ありがとうございました。



消防クラブ結成

このクラブは、防災消防についての学習及び実技体験を行い、防災意識の高揚と知識向上を図り、地域防災の担い手となることを目的として平成24年2月17日結成された。クラブ員は、生徒会、インターアクト部のメンバーや希望した生徒74名で構成されている。同日に開かれた組織会では、八戸東消防署署長の激励の挨拶やクラブの隊長を務める生徒会長の村下直光君から力強い宣誓の言葉が述べられた。また、八戸地域防災協会から

活動時にかぶる帽子が寄贈され、生徒達はこれからの活動に対し気持ちを高めた。

クラブのこれまでの活動として、3月11日に開催された白銀地区自主防災会主催の防災（大津波避難）訓練に9名が参加し、震災時の被災地支援の在り方を学んだ（障害者避難疑似体験やAED操作訓練、心肺蘇生術訓練、応急担架作成訓練、炊き出し訓練、震災犠牲者の追悼セレモニー等）。4月14日には、青森県春の火災予防運動に合わせ防火講話、学校



内の防災設備の点検・取扱いの説明、消火器操作訓練、梯子車による救出訓練を八戸東消防署の指導を受け実施した。

今後も年間を通じて、様々な訓練や学習会、地域活動への参加等を予定している。



春到来

新入生を迎え入学式

4月8日(日)、本校体育館において平成24年度入学式が行われました。112名の新入生たちは、緊張した面持ちで式に臨んでいました。日曜日ということもあって、多くの保護者が式に出席され、来賓の方々とともに入学を祝いました。式辞の中で学校長は「30年後の君たちは、社会の中堅の大人となる。そんな時代に、精一杯努力する人間となり、正々堂々真っ直ぐ生きる人間となってもらいたい。」と新入生に日々の生活指針を述べました。これを受けて、新入生を代表して、境健太君(十和田中出身)が「校則を守り、よき生徒として、校名をはずかしめないよう努力します」と力強く宣誓しました。

また、入学式後には、入寮式も行われ、

校長の挨拶の後、寮長の工藤寿輝君(百石中出身、サッカー部)が歓迎の挨拶を述べ、新入寮生を代表して三浦力照君(五戸中出身、サッカー部)が誓いの言葉を述べました。

9日には新入生ガイダンス、10日は在

校生との対面式、11日部活動紹介、12日交通安全講話、13日検診など、高校行事も徐々に体験、16日からは授業が開始され、本格的に高校生活が始まりました。

(鳥谷部 寛明)



全国高等学校選抜レスリング大会に参加して

新潟市に於いて平成24年3月26日～29日まで開催された、第55回全国高等学校選抜レスリング大会に120kg級 坂井 隼人君(七戸中出身)が出場した。

本来であれば彼には昨年度出場の機会があったが、直前に3.11の東日本大震災があり、会場の体育館が避難所となり大会は中止。今回は万全を期しての出場となった。

彼には昨年度インターハイベスト16・

国民体育大会グレコローマンスタイル第5位の実績があるが、普段130kg位の体重があり、出場階級の120kg級までは10kgもの減量が必要です。相手と戦う前に自分との闘いであり、毎日飲まず喰わずの闘いが続いた。新潟に着いてもサウナに行き、ギリギリまで汗を絞り落とし、やっと計量に成功した。

緊張と不安だらけの1回戦の試合。対戦相手は近畿代表「海洋高校」の選手、幸先良く得意の首投げで1ランド30数秒でフォール勝ち、そして2回戦に駒を進めることができた。

2回戦の相手は団体戦準優勝チーム埼玉県「花咲徳栄高校」のエースであり、今大会の優勝候補でもあり百戦錬磨の選手です。最初はお互いに手の内を探り睨み合いが続き、試合の駆け引きが始まった。しかし、相手選手は手慣れたもので、1回戦で坂井君が首投げで勝利したのを



見ていて、なかなか組んでくれず、坂井君のペースには乗ってこなかった。反対に対戦相手は彼の苦手なタックルで攻めてきて、思わず場外際に倒れ込んでしまった。終わって見れば2ランドテクニカルフォールと言う散々な結果に終わった。

全国選抜大会に参加して全国の壁を知り、また自分の欠点を知ったので、今後の精進と活躍を期待したい。

(顧問 穴戸 晶)



昨年3月11日の東日本大震災による鹿児島県での全国選抜大会が中止となり、2年ぶりの開催となった岡山県での本大会。本校空手道部は1月の東北選抜大会で3位になり出場権を得た女子団体形で大会に臨む。

今冬は日本全国記録的な大雪。まさかとは思っていたが、出発当日の早朝から東北自動車道で雪が降り続き、例年の3月末だったら起こりえない大雪によるノロノロ運転となった。野辺地から岡山への長旅のため、途中富山で1泊したが、大雪で宿への到着が2時間も遅れてしまった。前途多難。そして不吉な予感……。



空手道全国選抜大会に参加して

翌日岡山到着。練習。ホテルで長旅の疲れを癒す。岡山は意外と寒い。特に夜はコートが必要な位だ。団体形は半年も練習を続けてきた。相手は強豪ばかりだが何としてでも初戦は勝ちたい、勝たせてあげたい。勝利を願って眠りに着いた。

さあ、開会式が終わって、待ちに待った本番だ。まずは対戦相手の赤、広島山陽高校の演武が終わる。多少バラツキはあるが、力強さやキレもあり相手にとって不足はなし。



次はいよいよ青の我空手道部3人の登場。呼び出しの声。「光星学院……(数秒してから)野辺地西高等学校。」「ハイ、ハイ、ハイ。(不揃いな本校選手3人の返事)」。オイオイ、呼び出し君、途中で校名を忘れるなよ、やる前から調子狂っちゃうよ。演武開始。呼び出し君の影響もあってか、バラバラしている、後半持ち直してくれと思っていたら、突然コートが薄暗くなった。いったい何が起きたんだ!? 何と、演武の最中にコートの真上の電気が2、3個切れたのである。演武終了。0-5の完敗。1本位青の旗が上がって欲しかったな。

かくして、大雪のノロノロ運転に始まり、呼び出し君、球切れ、完敗に終わった大会。

夏の新潟でのインターハイ出場をめざして、練習に励みます。

(部長 長澤 秀樹)

新任の先生方に インタビュー

新年度が始まり、3名の新任の先生をお迎えすることになりました。

そこで、生徒会会長瀬川華蓮さんと副会長の櫻庭佑緑さんが、新任の先生方にインタビューをさせていただきました。いずれも光星高校より転任してこられた先生方です。

・出席者 赤坂 孝 先生
類家 清斉 先生
佐藤 一成 先生

司会 先生方が赴任されてきて、一週間経ちましたが、慣れましたか？

赤坂 まだ、もうちょっと時間がかかりますね。(前任校とは)システムが違いすぎるので。

類家 同じですね。今日から授業をやりましたけれども、授業の時間帯とかね。そういった感覚もあわないし、もう少し時間がかかると思います。

佐藤 「オートメカニック系」とか「人間福祉系」とか「進学系」とか「教養系」だとか、今までにない呼び方がいっぱいあって、違いが分からず戸惑っていますね。

赤坂 ようするに、みんなまだ総合学科にまだ慣れていない。

司会 野辺地に最初に来てみての印象はいかがですか。

赤坂 雪が多いのが第一印象。

類家 赤坂先生と同じですね。あとは八戸からは遠いなあと感じましたね。

佐藤 野辺地の先生方が優しいなあ、非常に温かみがあると感じましたね。あと、ホタテが有名なので、すぐに漁港に行ってきました。

司会 本校生徒の印象はいかがですか。

赤坂 今日2年生の授業に行きましたが、人間性がいかなと感じた。本格的な授業じゃないので、どれくらい勉強してくれるかが楽しみ。暖かい、人懐っこいといった印象ですね。

類家 休み時間に物を食べている印象を受けた。また、人懐っこいというのは感じています。

佐藤 1年生を担当していますが、しっかりしている印象です。生徒のみんなに伝えたいのは、自分のプラスになる「けじめをつける」とか、「時間を守る」とか、「服装を正す」だとか「受け答えができる」だとかということをも身につけ、幸せになるために少しでもがんばってもらいたいということですね。

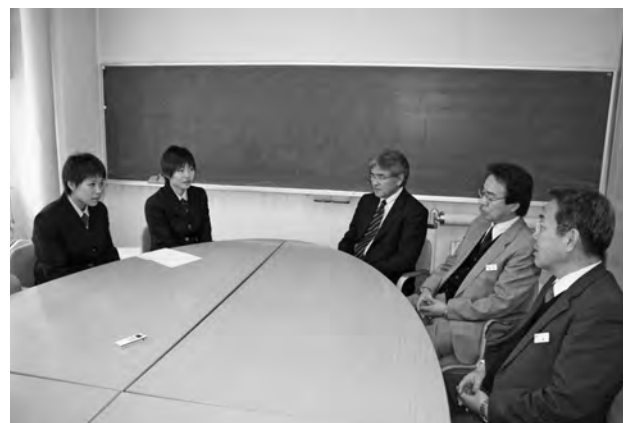
司会 最後に今後の抱負をお願いします。

赤坂 とにかく、健康に気をつけて、生徒と楽しくやっていきたい。

類家 野辺地西高のために、役に立てることがあればなあと思っています。

佐藤 出合いを大切にしたいと思っています。皆さんとの出合いが、お互いを高め合う関係の出会いであります。私達教師は皆さんから学ぶことが多いので長く教員をやってこられた。皆さんにもいろいろなことを教えてもらい、楽しく仲良く過ごしたいなあと思っています。生徒の皆さんにはここが私達の良い思い出の地、学校となるようによろしくお願いします、とお伝えいただきたい。

司会 本日はありがとうございました。これからよろしくお願いします。



平成23年度 卒業式

平成23年度3年次生は、総勢99名（男子65名、女子34名）でスタートしました。昨年3月11日に発生した東日本大震災の影響や福島第一原子力発電所による被害が甚大で、復興への道のりが険しい現状の中、進学・就職活動にとって厳しい状況での前途多難な幕開けとなりました。入学式が停電での実施であったことも印象に残っています。

年度当初、学年だよりを通して生徒と保護者の皆さんに呼びかけたのは、【進路を決定する＝勉強に励み卒業を決定する＝有終の美を飾る】ということです。この〔進路実現と卒業〕は、3学年の最大目標です。しかしながら、自分の進路に対する取り組みや具体的な動き（例えば、受験先の決定、試験に向けての対策など）が鈍く、各学級担任は大変ご苦労されたと思います。



9月中旬から解禁となった就職試験も残念な結果が多く、苦戦しました。しかし、進路指導部のバックアップや各担任のサポート、生徒自身のガンバリもあり、次第に良い結果が出てくるようになりました。最終的にはすべてきまった状況で〔進路を決定する〕、99名全員が卒業をできた〔勉強に励み卒業を決定する〕ことが、大変うれしいと思います。〔有終の美を飾る〕



男子の制服が最後の学年となるということから、しっかりとした着こなしをするようにと呼びかけ、乱れた服装で卒業式に臨んだ生徒もなく、最後のクラスとして名前を呼ばれた3年5組の生徒諸君の元気で大きな堂々とした返事を聞いて、3年間一緒に生活し、行動し、指導してきた3年生の先生方のご苦労が一気に報われたような、感無量の卒業式でした。

（3学年主任 岩葉 慶喜）



八戸短期大学附属幼稚園

爽やかな風を今年も

今年で6年目を迎える本園に
多くの子ども達と新しい園長先生と教員を迎えました。

☆佐藤 愛子 園長先生

前茂木園長に代わり八戸短期大学附属幼稚園に参りました佐藤愛子です。よろしくお願いいたします。

満3歳児さんから、年長児さんまで全員が集合した4月27日のお誕生会では、ホールいっぱいに溢れる子ども達のエネルギーに感動すると共に、幼稚園教育が子ども一人ひとりの持つ限らない力を引き出す重要な役割を担っていることを強く感じました。

園での時間が子ども達にとって、より楽しく豊かなものになるよう、先生方と力を合わせ努力して参ります。



☆石澤 幸恵 先生

八戸短期大学をこの春に卒業し、胸の中を不安と期待でいっぱいにしてながら幼稚園に向かった辞令式から、一か月が経ちました。

私は満3歳のつばみ組の副担任として、毎日涙と笑顔が入り混じり、つい先程までニコニコと粘土で遊んでいたかと思うと、急にお母さんを思い出して泣き始めてしまうような、そんな繊細な子どもの心を掴むには、どのように声を掛けたら良いのか、試行錯誤の毎日です。慣れない動きで、体中が



筋肉痛になっていますが、私も子ども達と同様に、少しずつでも慣れていきたいと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。

聖アンナ幼稚園

春の 季節祭

聖アンナ幼稚園では、四季折々に、その季節が感じられる「季節祭」を行います。

今年の「春の季節祭」では、春の「ひかり」と「風」と「におい」を感じながら、園庭で種まきをしました。自分たちで土を掘り、種をまき、育てていくことで、花や野菜の成り立ちを観ることができ

ます。
子どもたちは、毎日、水やりをしながら、小さな変化に喜びながら、成長を楽しみにしています。



犬バス運行中



市内を愛くるしい表情で走る犬バス、聖アンナ幼稚園の園バスです。「わたし、犬バスに乗るの!」と、子どもたちに大人気のバスです。通りすがりの人たちも、振り返り、笑顔で手を振ってくれています。

乗車する子どもたちはもちろんですが、街で会う人たちにも夢を運んでくれていることでしょう。

第二しなのめ幼稚園

いっぱいママ友つくろう！

当幼稚園の保護者の会は「すくすく会」という名称で親しまれています。子どもたちは幼稚園の教育をとおしてのびのびと・ぐんぐんと育っていきます。様々な園行事にかかわり楽しみながら保護者も子どもと一緒にすくすく育つ会にしたいとの願いの名称です。

PTAの会という会長がいて役員がいてと思いがちですが、当園では誰でもがいつでも参加しながら相談したり思いの考えを話せるバリアフリーな会を作っています。子どもを真ん中に、先生方と一緒に教育活動をお手伝いしていくことはもちろんですが、保護者同士がい



ろいろな時間をすごしながら、よりよいコミュニケーションをとり互いの距離を縮め楽しむいろいろな講座も。

入園・進級で新しい春を迎えた4月は、「ママ友立ちをいっぱい作ろう会」



「からだを動かそうエアロビクス」
「思い出を素敵に残そうスクラップブック」いつも輝いているママになりたいなリンパマッサージ講座「イメージした文字言葉を書こう習字体験」子どもたちのお楽しみ園児作品展協賛バザーでの「遊びの広場」など等。

さあ、子どもとともに幼稚園生活を楽しみながら、たくさんの方々と触れ合う喜びや新しいことへの挑戦をしつつ、大切な時間になるように、やさしい空間を過ごせるように、たくさんたくさんママ友づくりをしませんか。



びわの幼稚園

交 通 安 全 教 室

びわの幼稚園では、4月26日(木)に、クロネコヤマト(株)さんに講師をお願いをし、交通安全教室を開催しました。

クロネコヤマト(株)さんでは、宅配便のトラック模型・信号機・横断歩道シート・小型自転車など、本物の道路を想像させるような準備をして約10名のお兄さんお姉さんが、宅配便運転手・道路でサッカーをしている子供・一時停車しない自転車等、それぞれに扮し「ボールがトラックの下に入ったらどうしようか？」などと園児たちと一緒に考えながら実演を通した安全教育でした。

今回の教室では

- 1、車の下には絶対に入らないこと。
 - 2、車の前には絶対に飛び出さないこと。
 - 3、正しく横断歩道を渡ること。
- の3項目について勉強しました。

特に、正しい横断歩道の渡り方については、歩行者用信号が赤から青になったことを確認し、「右見て車の確認」・「左見て車の確認」・「もう一度右見て車の確認」と園児たちは、クマやトラの着ぐるみをまとったスタッフのお兄さんお姉さんと手をつなぎ安全確認をして横断歩道を渡る体験をしました。

最後に、「まだ、雪は残っ



ていますが道路はもう乾いています。車は急に止れません。今日お勉強したことを、おうちに帰って、お父さん、お母さんにも教えてください。」というスタッフの掛け声に園児たちは大きな声で「はい」と答えておりました。



— 第 84 回選抜高等学校野球大会 —

ご声援ありがとうございました

優勝 大阪桐蔭

準優勝 光 星

